

役員・会員・寄付者一覧

■役員

理事長	中村 順子	
副理事長	星野 裕志	九州大学大学院 経済学研究院教授
	佐藤 友美子	追手門学院大学地域創造学部教授
理事	足立 勝	株式会社神戸介護ケアウィング代表取締役
	小室 邦夫	ヒューマンスキル研究所 主宰
	當間 克雄	兵庫県立大学 経営学部教授
	飛田 敦子	認定NPO法人CS神戸 事務局長
監事	奥村 一人	コンサルティングオフィスK 代表
	井上 隆文	公益財団法人 神戸いきいき勤労財団 神戸市勤労会館館長

■会員一覧(順不同・敬称略)

正会員(20名) 足立 勝/岡本 仁宏/佐藤 友美子/小室 邦夫/坂本 登/中村 順子/立田 英雄/當間 克雄
川島 龍一/長谷川 京子/飛田 敦子/藤原 和男/星野 裕志/松下 忠義/朴木 佳緒留/青山 ゆみこ/池田 拓也
尾花 弘教/奥村 一人/井上 隆文

賛助会員・個人(85名) 端 信行/桑山 信子/上野 恭男/直田 春夫/有友 ひとみ/小林 るみ子/進藤 啓子
見機 明/新福 たか子/津田 久雄/落合 弘/松元 隆平/粟野 真造/古結 洋子/森田 正純/藤本 傑士
林 祐介/植戸 貴子/伊谷 須美子/向山 良子/瀬戸口 延恵/藤本 隆/林 律子/新庄 達也/井上 雅晴
広井 かほる/赤須 治郎/尼川 洋子/與口 修/森 功/稲田 薫/高橋 度/泉 勇策/日下 恵子/井上 怜
菅 祥明/黄田 昭子/細見 典子/村上 義弘/伴 和史/井筒 眞弓/西田 幸夫/岡部 記代子
三好 祥世(幸代)/大久保 和雄/尾山 宗久/遠田 豊成/川島 悦子/梶原 靖子/山内 延浩
大谷 敏行/浜田 宏樹/岡田 雅幸/増金 祐次/蒲田 尚史/氏家 都子/大野 利恵
平田 富士男/金芳 外城雄/村戸 靖男/丸本 恭子/小見山 竹和/大和 三重/片岡 治
原 祥隆/大黒 洋一/吉本 隆光/小林 義徳/中山 照彦/保元 温/高橋 貴之/端 信行
宮下 隆二/小林 清隆/中村 保佑/峯村 しげ子/四宮 一夫/朝山 日出夫/宮崎 太喜夫
松嶋 剛史/長澤 マリ/朴 徹雄/子川 幹男/長田 幸一郎/東郷 寛

賛助会員・団体(13団体) 一般社団法人クルレ/NPO法人福祉ネットワーク西須磨だんらん
医療法人明倫会 宮地病院/NPO法人ジンジャークラブ/ヒューマンスキル研究所/特定非営利活動法人薫風
NPO法人ゆうネット/神戸いたやどばあちゃん/宗教法人 満福寺/エンゼルス/アテンドクルーなど
NPO会計支援センター/NPO法人ホザナ・ハウス

■寄付者一覧(順不同・敬称略)

企業・団体(7団体) 大和リース株式会社/有限会社 神輝興産/株式会社シカタ/商船港運株式会社
日本郵船株式会社/明治安田生命保険相互会社/大阪ガス株式会社

個人(24名) 高橋 貴之/越智 深/植戸 貴子/古結 洋子/小林 清隆/増金 祐次/金芳 外城雄/小藪 光子
落合 弘/市村 尚子/福嶋 正次/瀬戸口 延恵/尾花 弘教/大谷 敏行/稲田 薫/島田 誠/堂内 克孝
子川 幹男/赤須 治郎/中村 順子/飛田 敦子/小室 邦夫/山崎 速嗣/長井 明子

※あすパークにいただいたクラウドファンディングおよび物品寄付については、p5に別途記載しています。



認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)

〒658-0058 神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104

TEL.078-841-0310 FAX.078-841-0312

E-mail : office@cskobe.com URL : https://www.cskobe.com

2020
ANNUAL REPORT

2020年度事業報告書

2020年4月～2021年3月

ご支援
ありがとう
ございました!

ごあいさつ

2020年度は、兵庫県を含む6都道府県に発出された『新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言』とともに幕を開けました。時々刻々と状況が変化し、誰も明確な「正解」を持たない中で、地域で求められていることは何なのか、CS神戸として何をすべきなのか、走りながら考え、実行した1年でした。試行錯誤をしながらも、臨機応変に取り組んだコロナ対応事業は、大小合わせて9事業となり、新たな寄付先の開拓やネットワークの構築にもつながりました。また2020年1月に大和公園に設置した「地域共生拠点・あすパーク」も、年間約5,000人の利用があり、14の協働事業が立ち上がるなど、課題解決型の地域拠点として役割を果たすための基盤を築くことができました。クラウドファンディングという新たな資金調達の手法にもチャレンジしました。

対面によるプログラムが大幅に制限される状況ではありましたが、市内6か所の拠点(本部・生きがいしごとサポートセンター神戸/生きがい活動ステーション/コミュニティ相談センター/まちづくりスポット神戸/JR住吉駅前駐輪場/地域共生拠点・あすパーク)を中心にITでのつながりづくりやグループづくりに取り組み、ほぼ昨年度並みのグループを生み出し、成果を収めることができました。

また、法人のホームページのリニューアルや、事業部を中心とした会議体の導入など、組織基盤の強化にも注力した1年でした。

アフターコロナ時代に相応しい新たなつながりを構築するため、「自立と共生」のミッションに今年度の未曾有の体験を充分組み込み、挑戦を恐れず歩みを進めて参りたいと思います。

2020年度の実績と成果

実績	新規相談者数	842名
	講座数	244本
	受講人数	2389人
成果	立ち上げ団体数	58団体
	新規活動者数	566名



理事長 中村順子



事務局長 飛田敦子

ミッション 「自立と共生」を理念とした地域社会をめざし、自ら活動する人々を応援します。

ANNUAL REPORT 2020 2020年度事業報告書

●ごあいさつ	2	●神戸市コミュニティ相談センター/居場所立ち上げ・運営支援 介護保険地域密着型サービス第三者評価事業	8
●Topics 1 新型コロナに関する地域支援事業	3	●子ども・地域食堂支援/市民活動サポート基金 外部講師&視察受入	9
●Topics 2 あすパーク	4	●決算報告/ポートフォリオ	10
●Topics 3 CS神戸のホームページをリニューアル	5	●2021年度に向けて/事業所マップ/組織図	11
●ワラビー/JR住吉駅前駐輪場	6	●役員・会員・寄付者一覧	12
●生きがい活動ステーション/まちづくりスポット神戸 神戸市予約図書受取コーナー/まちスポらば	7		

2020年度 Topics 1 新型コロナに関する地域支援事業

新型コロナウイルスは、対面でのつながりを大切にしてきたNPOやボランティアグループに大きなダメージを与えました。新しいつながり方の模索や、活動継続への葛藤など、地域のリーダーの方々は数々の決断を迫られてきました。CS神戸として「2.神戸市内の居場所を対象としたコロナ対応に関する緊急アンケート」をいち早く実施し、現場の

ニーズをくみ取りながら、合計9つの取り組みを行いました。今後は、高齢者向けスマホ教室等のオンライン導入支援を一部継続するとともに、アフターコロナ時代に合った新しい交流プログラムも検討中です。オンラインとオフラインの良いバランスを模索しながら、「何かあったときに頼りになるつながり」づくりを構築していきたいと考えています。

1	コロナ感染のあった事業所への激励プレゼント	コロナ禍の初期、東灘区で感染者が出て誹謗中傷があった事業所を訪問し、お菓子や日用品などをプレゼント。
2	神戸市内の居場所を対象としたコロナ対応に関する緊急アンケート	神戸市内46の居場所にアンケートを送付し、約7割より回答を得た。再開への模索、資金的な問題など、課題が浮き彫りとなった。
3	10分ふれあいコールの実施	市内5か所の居場所と連携し、電話による居場所を実施。計58件の入電。オンライン報告会で全国発信し、福岡でも実施された。
4	乗り切ろうコロナ助成金	居場所等を応援するための緊急助成として、市民活動サポート基金の特別枠で実施。計25団体に2万円(計50万円)を助成。
5	マスクポストの設置および寄贈	CS神戸の各拠点にマスクポストを設置し、計243枚のマスクが寄せられた。アテンドクルーの活動先である介護施設に寄贈した。
6	Withコロナにおける感染症勉強会	居場所を再開したいが感染症対策が不安という声を受け、医師をゲストに迎え居場所での感染症対策を考える勉強会を実施。
7	Withコロナでもつながり続けるための居場所交流会	居場所向けにコロナ禍での活動の工夫を共有する交流会を実施。工夫の共有のみでなく、活動目的についても再確認し共有。
8	オンライン導入支援	居場所等にLINE等の導入を支援。合計11回の講座を実施し、66名の参加を得た。下半期には緊急雇用対策事業として拡大実施。
9	KOBE学生スクラムにおけるプロジェクト組成	学生への経済支援として実施した神戸市事業に協力。CS神戸は学生が参加する地域活動プログラムとして19事業を組成。



コロナ支援「いたやどばあちゃん」 はじめてのLINEチャレンジ@あすパーク



マスクポスト



居場所交流会

オンライン導入支援を実施した「神戸いたやどばあちゃん」代表 黒田幸子さんのコメント

2020年7月、CS神戸さんからシニア対象の「はじめてのLINEチャレンジ」講習会開催の提案を頂き、おためしで実施しました。結果、スマホを使いこなしたいシニアの思いと「孫と祖父母」世代にあたる学生との組み合わせが有効とわかり、秋以降は大学生が講師になる「スマホお困りごと相談会」を月2回定期開催しています。今は大学生がグループを立ち上げて活動を引き継ぐまでになりました。

コロナワクチンのウェブ予約等、シニアにもスマホの使用が求められるようになりました。シニアがスマホやITの楽しさや利便性を実感できるよう、若者の視点と能力を活かしてシニアのITへの取り組みをサポートしていきたいと考えています。

2020年度 Topics 2 地域共生拠点・あすパーク 1周年!

2020年1月に竣工したあすパークは、4月より本格オープンしました。新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言下で閉所しなければならなくなり、苦しいスタートとなりましたが、宣言解除後は感染症対策に留意しながら活動を再開し、結果的には年間4,826人の来館者を迎えることができました。

5月から7月には初の試みであるクラウドファンディングにチャレンジし、当初目標を大きく上回るご支援をいただくことができました。(右ページ参照)

このご寄付の中から建物周辺の芝生化プロジェクトの実現を始め、あすパークの重要なコンセプトの一つである「多様なセクターとの協働事業を作り、社会課題を解決していく」というミッションに沿って、多数の事業が立ち上がりました。

その他にもあすパーク内では兵庫県および兵庫県雇用開発協会からの委託を受けて、「兵庫型シニアショートワーク事業部」がスタートし、さらに「企業とNPOの協働セミナー」から創出された「食べる健康プラットフォーム」事業では、フードロス削減や子ども食堂への食材配送などの取り組みを進めています。

2月に東灘区文化センターにおいて開催した「70歳就業社会とシニアの新しい働き方フォーラム」では、シニアや企業のニーズを把握し情報提供を行ううえで重要な役割を果たしました。

2月23日には「1周年感謝報告会」をリアル会場とオンラインで開催し、60名の参加者があり、それをもとに1周年記念活動報告書もまとめることができました。

このような活動の結果、多くのマスコミ取材や神戸市長をはじめとする視察を受け入れることができ、テーマ型コミュニティの新しい類型を生み出しつつあります。



おから研究会



1周年感謝報告会



1周年記念の活動報告書



芝生プロジェクト



シニアショートワークセミナー

あすパーククラウドファンディング 寄付者一覧 (敬称略・順不同)

- | | | |
|--|--|---|
| エンゼルス
おーまきちまき
こけやまこうすけ
小林清隆
こもれび工房中山照彦
ステップバイステップ山本好克
朴木佳緒留
古谷さつき
三村雅信
保元温
よっしーむむ
安藤眞佐子
伊地知紀子
井上由紀子
宇野大典
永野純一郎
塩瀬潔泉
岡田雅幸
岡本仁宏
河内行治
角一吉昭
梶原靖子
岩田尚登
久米路子
宮武裕美
金成日
後藤昭憲
江口聰
高橋貴之
黒木正樹
佐藤博史
佐伯剛
佐野正明
三井ハルコ
三戸俊徳
三島栄一
山崎速嗣
山内延浩
NPO 法人コミュニティかりば | 山納洋
山本のぶ
子川幹男
氏家都子
紫微嶺里山楽しむ会
時任啓佑
重真理子
小嶋新
小野作治
小林浩司
小藪光子
松下麻理
松元隆平
松村史邦
松田ヒロ子
森本泰司
神戸米町司法書士行政書士事務所司法書士藤井芳典
神野苑香
菅祥明
清田仁之
西田幸夫
西田滋
青山ゆみこ
青木秀敏
石丸真理子
川中大輔
川田照義
泉勇策
倉橋正巳
増金祐次
足立勝
村井拓人
大谷敏行
池田拓也
中山寿子
中須雅治
中西志津子
中村順子
中村保佑 | kadonof
中平了悟
津田久雄
辻信一
島田誠
嶋田征彦
東恭子・東善仁
東灘こどもカフェ
東末真紀
藤原和男
特定非営利活動法人アスロン
特定非営利活動法人ふれあい福祉の会山びこへるぶ
内田満夫
梅谷順子
白水崇真子
畑中進
八尾高伸
八林公平
伴和史
飛田敦子
飛田雄一・飛田みえ子
尾山宗久
武田重昭
武藤由美子
福井誠
兵頭晴喜
米田芳博
堀久仁子
本田誠
野崎亜子
野谷忠志
野津隆志
矢野良晃
柳井俊郎
宥神輝興産
當間克雄
與田千尋
山村 弘美
大和リース (株) |
|--|--|---|

※118の個人および団体、32名の匿名氏より合計3,095,000円のご寄付をいただきました。

あすパーク物品寄付者リスト (敬称略)

- 井坂 信彦
- 加納 郁久
- 大和リース株式会社 角一 吉昭
- 岩田 尚登
- 佐藤 博史
- 株式会社ジャパンニューハン 坂木 学
- こまめや 山本 浩史
- 子川 幹男
- 氏家 都子
- 西池 陽一
- 西田 正裕
- 川田 照義
- 村山 メイ子
- 土井 香織
- 東し建設株式会社 トレファーム事業推進室
- 東灘こどもカフェ
- 特定非営利活動法人薫風
- 近畿労働金庫 八尾 高伸
- 大和リース株式会社 伴 和史
- 朴 徹雄
- 野崎亜子
- 新星電気株式会社

ご支援
ありがとう
ございました!

2020年度 Topics 3

CS神戸のホームページをリニューアル!

これまでのホームページを利用者目線で見直し、リニューアルしました!

「①情報をわかりやすく」、「②CS神戸が何をしているか(サポート内容)を知ってもらう」、「③地域活動への第一歩を後押しする」の3点を意識した構成にしておき、CS神戸のサポートで地域活動を始めた人や団体を立ち上げた人にインタビューしたコンテンツ(事例紹介)もあります。

さらに、念願のスマホ対応をおこなうことで、より幅広い世代にCS神戸や地域活動への興味を持ってもらい、新たな活動者の層を発掘します。

[URL] <https://www.cskobe.com>



“ハタラク”をつくる

生きがいしごとサポートセンター神戸東（ワラビー）

2020年度の相談の傾向としては、自粛期間中にいろいろと考える時間ができたせいか、起業相談では、今まで温めていた構想を実現したいという方が多かったこと、運営相談では、法人化であったり、運営体制の強化だったり、例年より基盤整備に係るものが多かったのが特徴です。また、就業相談においては、在宅ワークの求人がニーズとマッチしたため、在宅ワークを含め年間で前年比138%の方が就業成立となりました。

そして、2020年度はワラビーのIT化に追われた1年でもありました。

Facebookに加え、LINE Businessを新たに導入。LINE登録をすることで、求人に関する問い合わせが気軽にできるようになりました。また、Zoomでの相談や事業を行うために実施したZoom体験講座は大好評で、その後の個別相談や各種講座の開催もスムーズに行うことができました。もちろんITでの参加が難しい方のために、来所による相談対応もおこない、いくつかの講座では会場への来所とZoomによるオンライン参加のどちらでも可能としたハイブリッド方式での開催をしました。

ただ、オンライン開催の講座では、参加者との関係づくりが十分にできず、新規の団体立ち上げに苦戦した面もありました。この課題に関しては次年度に向けて検討を重ね、新しい取り組みをしていく必要があると考えています。

ハイブリッドでの講座開催の様子



地域に愛される見守りステーション

神戸市立JR住吉駅前自転車駐車場

通算で第5期目に当たる指定管理(指定期間2021～2025年)を更新することが出来ました。

感染防止対策を万全にして営業を継続、コロナ休校/通勤自粛の定期払い戻し・子育て世帯支援に加え大学・専門学校と子どもの支援割引を新設拡大しサービス向上を図りました。駅前見守り拠点として認知症見守り・子ども見守り、駅前緑化植栽など地域連携の活動を継続していますが、障がい者・駅前店舗・地域団体等との駅前清掃やクリーンキャンペーンはコロナにより活動の縮小を余儀なくされ有償ボラ参加人数は391名(40%減)となりました。

WEB環境を整備しHPでの定期申請処理などを始めました。新たに始まるキャッシュレスシステムに備えスタッフのIT研修を進めています。



「人」と「地域」の縁結び

生きがい活動ステーション

6周年を迎えた2020年度の4・5月は、新型コロナウイルス感染対策で休所となりました。6月からの開所後も、声掛けの自粛や、講座・サロンの人数制限等の影響もあり、情報提供者数は4,888人(昨年度比54.8%)と大幅に減少、相談件数2,799人(昨年度比85.1%)、うち新規登録者数は243人(昨年度比80.5%)となりました。

ただ、ボランティアマッチング数は88名(昨年度比88.9%)、立ち上げ・拡充数は14団体(昨年度比116.7%)となり、個別のサポートは比較的コロナの影響を受けずに行うことができました。

また、協働パートナーが(公財)神戸市民文化振興財団に代わり、その記念イベントとして2021年2月灘区文化センター「つながる大交流会」、3月兵庫区文化センター「す

ごいぞ、兵庫区！」を実施。アンケートで高評価いただき、2021年度の活動へつなげることができました。

商業施設で生まれる新しいコミュニティ
まちづくりスポット神戸

まちづくりスポット神戸は、BRANCH神戸学園都市で大和リース(株)と協働で運営して7年が経ちました。

スタッフ4名と有償ボランティア26名で運営し、79の登録会員の皆さんが子育て支援、高齢者支援をはじめ、様々な分野で地域活動をしています。2020年度の来館者は、新型コロナの影響で2019年度の17,241人から8,880人に半減しましたが、一方で、コロナ禍の中で多くの地域課題が表出したことで、自ら活動を始める方が多く見られ、このため、前年度に比べて相談とマッチングの件数がかなり増加しました。

情報発信力の強化にも力を入れ、ホームページをリニューアルし、また各種SNSを通じた積極的な情報の受

発信ができるようになりました。



人とまちを本でつなぐ

神戸市予約図書受取コーナー / まちスポらぼ

コロナ対応で休室や縮小など変化に対応しながらの運営となりましたが、ステイホームが求められる中で本の需要は根強く、18,000人を超える利用者が訪れました。

コロナ禍でも楽しめる仕掛けとして、家から不要な本を持ち寄り本棚の本と交換する「かえっこの本棚」を設置し、図書の受取・返却の際に本棚を覗いてくださる方も増えています。

今年度の主な活動としては、「本と人をつなぐアイデア会議」をオンラインで企画し、そこから「大人のための絵本の時間」「筆ペンであそぼう会」などの企画が立ち上がり活

動を始めたことです。

また、コロナ禍で子どもの居場所作りの必要性を感じ、10月からは神戸市外国語大学学生教育団体LearnBoと「放課後アソビ基地」を週2回設置し、大学生との協働事業にも取り組みました。



『ご近所』をサポートします！ 神戸市コミュニティ相談センター

コロナ禍は「顔を合わせてのお付き合い」が基本であった自治会に多大な影響を及ぼし、当センターも3月～5月に閉館した一方で、相談件数は昨年度比2倍を超える件数が寄せられました。(2019年度 56件、2020年度 126件)

加えて、広報ツールとして「コミセン通信」を年2回発行し、Facebookを開設したことで少しずつ単位自治会にも当センターが認知されてきました。

コロナ禍において自治会の現状を調べるため急遽アンケートを実施したところ、少人数での役員会、公園清掃、高齢者・子どもの見守りなど小規模で必要とされる活動は継続されていることがわかりました。アンケートに回答し

てくれた自治会長をゲストにお呼びし、実際の活動紹介をして頂いた「情報交換・交流会」は好評を得ました。



情報交換・交流会

居場所と役割のあるまちへ 居場所立ち上げ・運営支援

2020年度は居場所サミットの実施、神戸市への提案書の提出、居場所におけるつながりづくり(エコシステム)調査の3事業を実施しました。

居場所サミットは、会場への参加とZoomによるオンラインでの参加を両方可能としたハイブリッド形式で実施し、会場参加72名、オンライン参加110名の合計181名が参加しました。基調講演の湯浅誠氏(NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長)から、ウイズコロナ時代における居場所の意義や可能性について言及いただきました。

神戸市への提案書の提出では、市内7つの中間支援がともに取り組み、居場所情報の一元化に向けた提案を行いました。居場所におけるつながりづくり調査では、兵庫県立大学NPO研究連携センターとの4年度目となる共同研究として「エコシステム(どのような量と質のつながりを構築してきたのか)」というテーマで報告書を取りまとめました。



居場所サミット(湯浅氏基調講演)



居場所サミット(配信の様子)

市民目線からの施設評価 『介護保険地域密着型サービス第三者評価事業』

CS神戸は兵庫県の認証を得て、2012年度から介護保険の地域密着型サービス(グループホーム等)の第三者評価機関となっています。利用者である市民の目線と事業所職員応援の姿勢に基づき、2020年度はグループホーム21件の評価を受託し、十分な感染予防対策を講じた上で実施しました。2021年度は(外部機関による評価でなく

運営推進会議での評価でもよいとする)国の突然な制度改定があった為に、殆どのグループホームが運営推進会議での評価に移行するとみられますが、客観性・専門性を重視する観点に基づき外部機関による第三者評価を選択した事業所からの依頼には、これまで通り誠実に対応し、CS神戸らしい高質で丁寧な評価を行なっていく所存です。

地域のフードロスを地域で改善 食材配送による子ども・地域食堂支援

神戸市からの委託を受け、食品スーパーで賞味期限の迫った生鮮系余剰食材を地域の子どもの食堂にシニアボランティアが自転車で配送するという調査事業が初の試みとして行われました。これまでも子どもの食堂の支援とフードロス改善のために、缶詰等保存のきく食材の流通は行われていましたが、本事業はそこから一歩進めて、野菜や果物等、従来は子どもの食堂へ届きにくかった生鮮食材を配送するというものでした。

協力いただいたコープこうべ3店舗、子ども食堂3団体、配送のシニアボランティア6名からも「社会的に意義がある」「届けてもらえてありがたい」など好評を得ることができ、今後一層の拡充が期待される事業となりました。



食材配送

地域活動を応援する草の根助成 市民活動サポート基金

毎年賛助会費の8割(2020年度は280,835円)を原資に組み入れています。2020年度はコロナ禍でも前向きに活動を続ける居場所や地域活動グループを対象に「乗り切ろうコロナ助成」を実施しました。居場所を開催できないが家賃等の固定費はかかるという状況なので助成と

の声が聞かれました。

前年度の助成団体による報告会は、Zoomによるオンラインと会場に来場する方法の両方(ハイブリッド)で開催しました。コロナ禍でもつながり続けるための前向きなアイデアが共有されました。

団体名	事業名	金額
居場所(計19団体)	乗り切ろうコロナ基金(1団体20,000円)	380,000
アテンドクルー(計6団体)	乗り切ろうコロナ基金(1団体20,000円)	120,000
多文化共生センターひょうご	多文化な背景を持つ子育て世代の支援と情報ネットワークの構築	120,000
NPO法人たけのこさいえんす	子ども科学実験教室の先生になるための講座 体験版	140,000
アテンドクルーなだ	高齢者施設での運営サポートや地域での助け合い活動	50,000
		計 810,000

外部講師&視察受入

外部講師

行政・外郭団体	神戸シルバーカレッジ/ひょうごふるさと創生塾/尼崎市社会福祉協議会/丹波篠山市西脇市社会福祉協議会/丹波篠山市社会福祉協議会/兵庫県青少年本部/丹波市/伊丹市
NPO・地域団体等	シニアCITYカレッジ/日本看護協会/認定NPO法人シニア自然大学校/ナルク芦屋NPO法人市民事務局かわにし/NPO法人神戸まちづくり研究所/NPO法人ふたば
企業	(有)協働研究所/近畿労働金庫
大学・教育機関	兵庫県立大学大学院/神戸学院大学/甲南女子大学/龍谷大学/立命館大学/追手門大学灘中学校/御影高等学校/神戸大学/神戸芸術工科大学

計28団体・65回 他、委員会等への就任多数

視察受入

行政・外郭団体	京都市文化市民局地域自治推進室/神戸市長/神戸市中央区長
企業	大和リース(株)名古屋支店/JR西日本駅ビル連合会/JR西日本アーバン開発(株)
大学・教育機関	兵庫県立大学當間ゼミ/淡路景観園芸学校/武庫川女子大学

2020年度決算報告

※詳細版はCS神戸のHPに掲載しています

貸借対照表

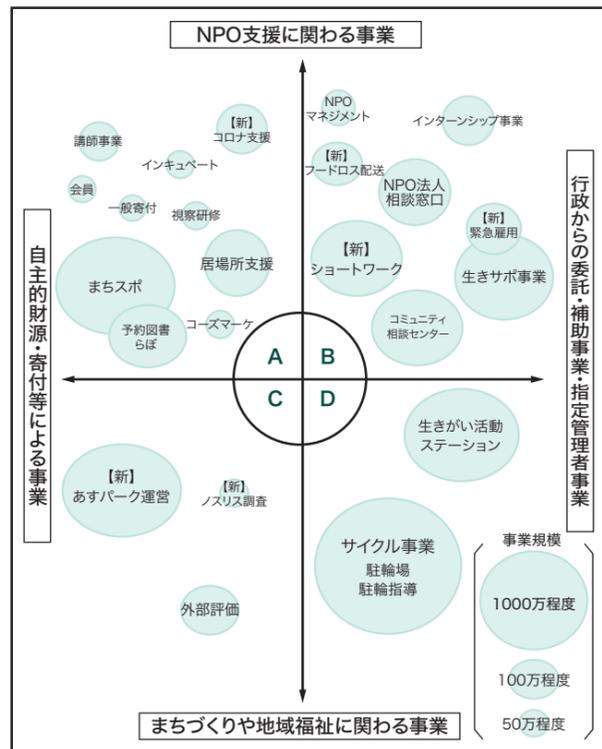
資産の部		負債の部	
1.流動資産	49,194,872	1.流動負債	9,924,099
(1)現金・預金	41,086,961		
(2)その他流動資産	8,107,911	負債合計	9,924,099
2.固定資産	42,180,226	正味財産の部	
(1)有形固定資産	24,655,893	前期繰越正味財産	78,426,639
(2)無形固定資産	275,960	当期正味財産増減	3,024,360
(3)投資その他の資産	17,248,373	正味財産合計	81,450,999
資産合計	91,375,098	負債及び正味財産合計	91,375,098

活動計算書

科目	金額	科目	金額
I. 経常収益		II. 経常費用	
1. 受取会費	582,000	1. 事業費	62,943,051
2. 受取寄付金	15,170,376	2. 管理費	15,738,907
3. 受取助成金等	14,830,000	経常費用計	76,681,958
4. 事業収入	48,416,836	当期正味財産増減額	3,024,360
5. その他収益	2,707,106	前期繰越正味財産額	78,426,639
経常収益計	81,706,318	次期繰越正味財産額	81,450,999

2020年度ポートフォリオ

CS神戸における事業構成 2020年度決算
総額：8100万円



2021年度に向けて

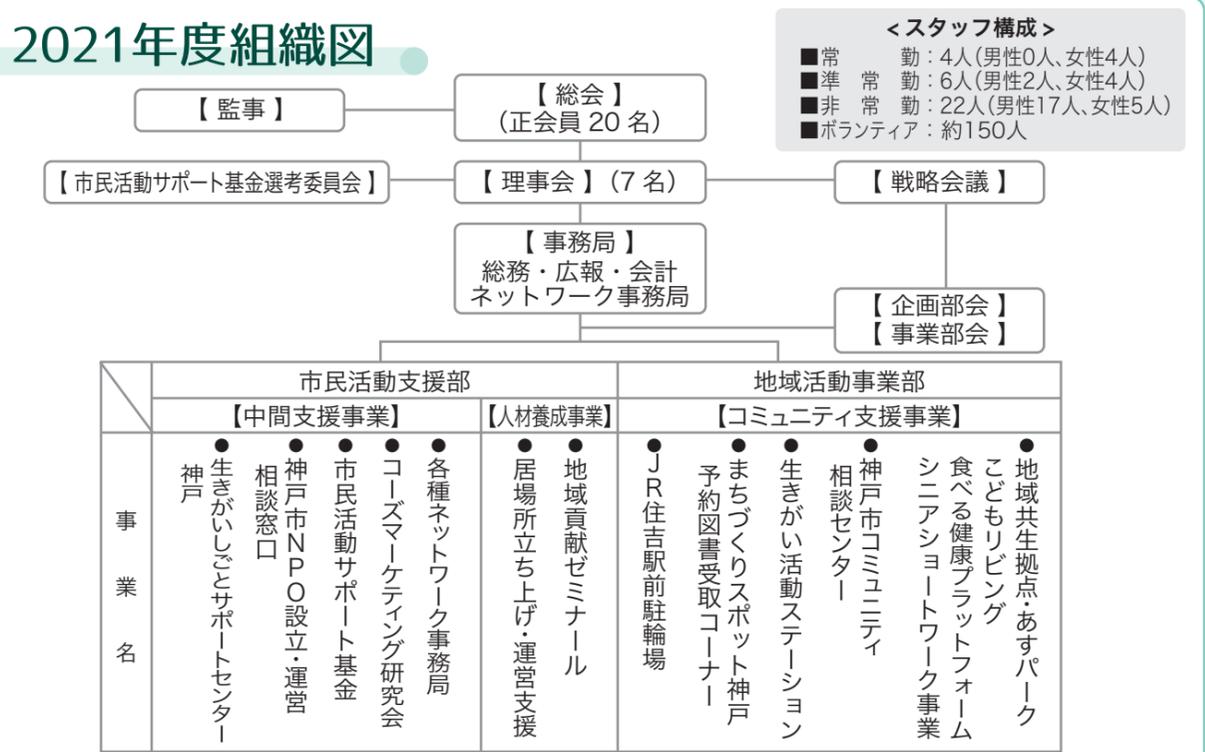
コロナパンデミックは、いまだに収束することもなく、更に変異しその力は勢いを増しています。これほどまでに、目に見えない外部からの要因による影響を強く受け続けた経験はありませんが、この1年で得られた教訓をCS神戸の全事業に刷り込むことが、ウイズコ

ロナ時代に適応する新たなつながりづくりの方向性であると考えています。

2021年度の基本方針として以下の3点を掲げ、精力的に地域や市民のニーズに応えていきます。

1. どのような環境変化にあっても「自立と共生」を理念としたつながりづくりに徹底して取り組みます。
2. つながりの相手や方法を旧来の関係のみに固執せず、積極的に新たな団体や個人との連携を模索し、新たなテーマコミュニティの創出に努めます。
3. 様々な試みが必ずしも良い成果に結びつかなくても、互いが冷静に分析し、励ましあい、寛容である風土を組織内外に醸成します。

2021年度組織図



事業所マップ

